



2026年・3月・25日

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 3月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <https://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

### ★沖縄からの疎開者が築いた「宮崎市 波島地区」を訪ねました。

久利理事長が「みやざき大使」を務められており、宮崎の波島地区について学ぶため、理事長を含め4人で宮崎を訪れました。



波島地区には戦時中に沖縄や奄美から強制的に疎開させられた方々が多く住んでおられました。我々は波島の真の歴史を後世に伝え続ける活動をしておられる、「かたりべぐるーぷ南の風」代表の常盤泰代さんにお話を聴きしながら、波島の町を視察しました。当時、沖縄・奄美から劣悪な環境の船に乗せられ、空爆や魚雷などの恐怖を耐え凌ぎ身を潜め、到着すれば安堵があると信じて、疎開者の方々はなんとか本土に辿り着かれました。

やっとの思いで辿り着いた波島は、決して安泰の地ではなく、現地人の反発もあり、軍人が目を光らせて、命の危険もある中で人々はこの地でもまた身を潜めていました。生きていくために、軍人・現地人・税務当局から逃れて焼酎・どぶろくの闇市で壮絶な毎日を過ごしていたそうです。我々はその後、宮崎県庁に向かい、河野宮崎県知事を表敬訪問し、久利会長は「波島を視察して参りました」とお伝えし、2丁目で取り組んでいるストリートミュージアムプロジェクトについても触れられました。久利理事長の「スタートしたら永遠に続けていくのがプロジェクトである」という説明に、河野知事は「恐れ入りました」と感激されておられました。知事室を出る前に久利会長が述べた「沖縄と宮崎の戦争文化を学んだ神戸は、沖縄と宮崎の蝶番の様な存在にならなければいけない」との言葉に、河野知事は大変に感激しておられました。

神戸・宮崎・沖縄と離れていても人との繋がりの大事さと、歴史の深さを感じた訪問でした。

### ★4月2日は世界自閉症啓発デー 世界172か国と日本全国520か所以上がブルーに！

4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー (World Autism Awareness Day)」です。自閉スペクトラム症



(ASD)をはじめとする発達障害への理解を広げるため、世界各地で啓発活動が行われています。その象徴的な取り組みが「Light It Up Blue (ライト・イット・アップ・ブルー)」キャンペーンです。現在、世界172カ国以上のランドマークや公共施設がブルーにライトアップされる国際的な啓発活動となっています。NPO法人「あっとオーティズム」は日本でこのキャンペーンを推進するため、毎年、「LIUB Japan 実行委員会」を立ち上げ、全国からパートナー団体・企業を募り、自治体、企業の皆様と連携しながら活動を行っています。

日本では2011年に神戸の3ヶ所のライトアップからこの活動が始まりました。

NPO法人あっとオーティズムは、Light It Up Blue キャンペーンのパートナーとして2011年から参加し、世界各地の啓発活動の連携やつながりの形成にも寄与してきました。Light It Up Blue のブルーの光には、「ASD や発達障害を理解し、互いの違いを尊重しながら支え合う社会をつくりたい」という願いが込められています。発達障害は決して遠い存在ではなく身近なものです。4月2日に青くライトアップされた建物をご覧になったら皆様もどうぞこの活動を思い出してください。



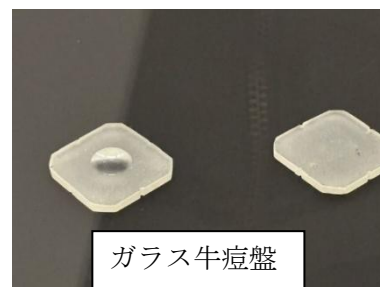
## ★神戸市立博物館 受贈記念特別展 ガラスとともに—玻璃文庫名品撰

神戸市立博物館では神戸松蔭女子学院大学（現在の神戸松蔭大学）名誉教授・棚橋淳二氏が蒐集された、玻璃文庫コレクションの寄贈を受けました。玻璃文庫とは、同氏が2011年以降に蒐集されたガラス工芸品・七宝工芸品などと、旧びいどろ史料庫から移管されたガラスに関する文献資料からなるコレクションです。江戸時代につく

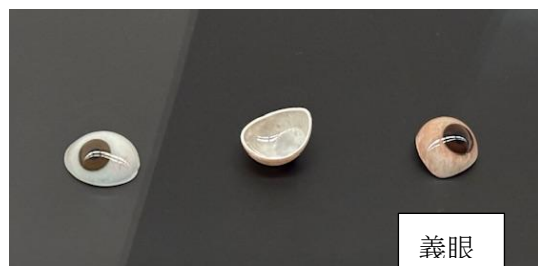


瓶細工

られた日本製のガラス器—びいどろ・ぎやまん、長崎貿易などを通じて日本にもたらされた欧米のガラス器の他、中国製のガラス器や日本製の七宝焼などが含まれます。とりわけ、明治時代以降、日本でも需要が増えていくメスシリンダー、メートルグラスといった理化学器具を多く含むことも特徴の一つです。本展では、色とりどりの輝きを放つ玻璃文庫コレクションの中から、約120点を厳選してお披露目しています。2丁目振興組合がアトス



ガラス牛痘盤



義眼



仕女ガラス絵

トリートの作品群に於いてガラス作品に力を入れていることもあり、早速、拝見してきましたので印象に残った作品をご紹介します。「瓶細工」は江戸時代後期から明治時代の初期に作製されたものですが、大変美しく、中に入っている色合い豊かな作品を完成するには相当な労力が必要だったと感じます。他では特に理化・医療器具に関しては分かり易いということもあり、「ガラス牛痘盤」・「義眼」が印象的でした。ガラス牛痘盤（19世紀中盤から後期）は写真の左側の器に窪みがあり、そこに天然痘のワクチンを入れ、その周りの面と右側の蓋の底面を摺ガラスにして、そこに水や油を塗り密封度を高めワクチンを保管するというものです。義眼は細かい血管模様もあり、非常に精巧に出来たものです。お椀のような形をし、眼球の上にかぶせるようになっています。ちなみに当時（19世紀中盤）は風眼、旬行性角膜潰瘍が非常に多く、角膜ぶどう腫や眼球萎縮などになったので、前者では眼球縮小術をしてこの義眼をかぶせると、よく動き、容貌が改善し喜ばれたようです。中国のガラス絵では「仕女ガラス絵」と呼ばれるこの作品は美しかったです。無色の板ガラスの片面に彩色し、その反対側

から鑑賞するものです。面白いのは逆面で描くので、通常の絵画作品とは異なる順番で描かれているそうです。この様に興味溢れる作品が多くあるこの名品撰は4月5日（日）迄、神戸市立博物館で開催されていますので、どうぞご覧になって下さい。神戸市立博物館：神戸市中央区京町24番地 <https://kobecitymuseum.jp>

## ★編集後記

1944年、サイパン陥落を受けて政府が南西諸島からの集団疎開を推し進め、沖縄や奄美から多くの女性や子供、高齢者が本土に避難してきましたが、宮崎市波島地区もその受け入れ先の一つとなり、川崎航空機工場の建設中止で空き家となっていた約700戸の住宅が疎開者に貸しだされました。当然ながら、戦中・戦後の生活は厳しく生きる為に密造焼酎の製造と、それを阻もうとする税務当局との攻防、そして「焼酎かす」を生かした養豚業への変遷と、波島地区で生きるため、どれほど厳しい環境の中を苦勞してこられたのか、現在の恵まれた環境下にいる私達には想像も出来ません。「差別意識」も存在したはずです。沖縄の歴史に触れるたびに、悲劇的な戦争での犠牲者の方々に当然ながら深い悲しみを覚えますが、波島地区で苦闘して生き抜いて来られた方々のように多くの人々の苦難の生活と歴史からも私達は目を背けてはいけないのだと感じました。

